

拝啓

暑い暑さが続きますが、水野先生、佐藤先生、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今、この場にして改めて父親としての過去を省みると、学校に行けない子どもに育ててしまったのは私の責任とハッキリ判ります。

次男坊の息子には47年上の兄がおりました。初めての息子と、長男には父親として敬しく接して来た分、いささが次男の息子には甘く、幼少期から

小学校の低学年までの間、周囲から見ても明らかに異常なくらい、息子のことを可愛がり、(「甘やかして」)いました。

幼少期においては、本人から要求されれば、スグに抱っこをいたしましたし、小学生になっても本人からの(我がままな)要求に大凡応えてきました。寝顔も見ているだけで、

とても幸せな気持ちになりましたし、世に言う「恐いお父さん」は我が家には不在で、いつしか、お父さんの変わりに「若いお爺ちゃん」が居るような状況になっていました。

息子の陽気な性格と天真爛漫なキャラクター性も手伝い、我が家の王子様への爺やの過干渉は、日々エスカレートしていくばかりでした。

そんな折、小学校3年生になった息子が、ある日突然、学校に行きなくなり、慌てた私は必死に「怖いお父さん」を演じましたが、染み付いた体たらくはスグに変える

ことは出来ず、ペアレンツ・キャンプさんとは別の子育て支援機関のお力を借りて、これまで接して主に父親のあり方を少しずつ変えていき、家内の頑張りもあり、漸く復学に

漕ぎ着けることが出来ました。復学までに要した期間には、小学校3年生の女月から10月迄の6ヶ月間でした。この時に支援機関の先生から教わった「メ・シ・ティの禁止」

いわずもがな、又命令、シ、指示、テ、提案を禁ずるとい、フモノでした。子^のども自主性を育むため「親からメッセージは発するな」と誤った受け止め方をして

これまでと打って変わリ、父親がウ息子へ話しかける行為は日に日に減っていき、所謂「怪訝な父親」を演じることで、息子のためになると大きく舵取りを変えていたのです。



しかし、見せ掛け上の対応がいくら変わっても、根本的な心情の部分がレ、カワレているわけには
 ない。再びやってきます。外壁をキレイにした我が家の屋台骨が脆弱なまま、迎えた
 息子中学二年の夏、恐れていた事態が起きてしまいました。そう、またキ不登校になった
 のです。息子本人も判っているようでしたが、自分は意志が弱い。ギリギリのところまで踏ん
 張れない、どうしても最後の最後で逃げてしまおう。

一方で、親は小学生相手のメ・シ・ティ禁止、を中学生の息子に当てはめ、アイメッセージ
 すら伝えることが出来ない。思春期の息子は、暗い闇の中に閉じこもり、自分の部屋
 から一歩も外へ出なくなっていました。

そんな途方に暮れた私たち家族に希望の光を与えてくださる、たのが、ヘアレンツ・キャンブ
 水野先生、佐藤先生のおエ方でした。初めてお会いしたその日に、大丈夫です、一緒に
 頑張りましょう、と励ましの意味を込め、喫茶店で頼んでくださった長靴グラスのクリーム
 ソーダは、生涯忘れることのない、我が家(夫婦)だけの宝物(シーン)です。



4/ 先生方の指導に導かれ、冷めきっていた家庭も少しずつ変わって、一ヶ月足らずで復学。

その後、二、三度のつまづきはあったものの、今では高校一年の一学期を皆勤賞です。

先生、私は忘れないうでしよう。先日より後座を拝した教えの数々を……

・子どもに質問をしてはいけないうことはありません。ただ遅延は禁止です。

質問は、答えを引き出す最終手段です。質問するからには、必ず回答を引き出す。

子どもに考えさせ、自らの意志で宣言させる。当初こちらが考える落としどころに持っていくならシメシメです。

・子どもへの説明は端的にです。ソレだけは、絶対に認めない。など言い放つのもOKです。相手の気持ちを引き出す。"カウンセリング"は長く、相手の懐へ介入する。"コーチング"は短く、これが父性の鉄則です。

・人生には、いつも選択の場面が訪れます。何がベストか。ベストと採り当てるのは難しいものです。目の前にある選択肢の中で、どちらがベターか。そうやって考え生きているように。う。



・最終的な物事の決定は、その本人が行うものです。こちらが不安なわりでは
 ありません。相手はもと不安なのです。だから情報は一緒に集めましょう。
 そして、求められたときにアドバイスをしあげましょう。決して目の前に見える
 ものだけが最終ゴールではありませんから。(さあ肩の力を抜いて……)
 優しくも力強く放たれた先生の言葉には、子どもとの対応だけでなく、
 スとしての対応 スにとって何が大切なのか スとして何をすべきなのか。
 愛すべき子を持つ一人の父親として、そのスとなり、を知る機会を頂きました。
 でも、これで全てが終わった訳ではありませんね。

決して目の前に見えているものだけが、最終ゴールではないのですから……
 夜空に輝く美しい花火に、ゆく夏を惜しむ頃、気持ちも新たに。

平成二十六年 八月 一日

愛知県

敬具

